

1 採択結果

| 教科・種目名 | 採択した発行者名 |
|----------|----------|
| 特別の教科 道徳 | 廣濟堂あかつき |

2 採択意見（担当より、山城教科用図書採択地区協議会の内容を説明後、審議）

- 道徳の授業は、真剣に考えたり、グループで話し合ったりするなど、気持ちが入った授業になるようにする事が大切だと思う。長年副読本等で受け継がれてきた定番教材は、生徒の心に響くものがあったり、考えるきっかけとしては子どもたちの心に入りやすいのではないかと思う。「廣濟堂あかつき」だとそのような定番教材が多く、ノートは少し難しいようにも思うが、中学生の道徳の教科書として一番読みやすいのではないかと考えている。
- 道徳を教科として評価していかなければいけないということを考えると、生徒の考えた道筋のようなものをきちんと記録できるノートが付属されているものが使いやすいように感じる。その中でも一つの話題について考えるのではなく、内容毎にいくつかの教材を組み合わせた上で自分の考えを深めていけるノートとしては「廣濟堂あかつき」のノートの方が深みがあってよいと思う。構成の仕方が違うため、ボリュームもあり、毎時間書くという作業は難しいと思うが、生徒に深く考えさせたい場面で活用の仕方を考えやすい教材になっていると思う。このような点から「廣濟堂あかつき」がよいのではないか。
- どの出版社も発問例や筋道が示されている。授業で扱いやすい工夫がされているが、一つの価値観を押しつけるようにならないようなバランスが大切だと思う。中学生の発達段階を考えたとき、互いの価値観をぶつかり合わせながら仲間とともに考える、価値観を葛藤させることが大事だと思う。「廣濟堂あかつき」はそのような点で工夫されており、「考え、議論する道徳」の実現に繋がると考える。